

令和4年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標	「豊かな人間性と高い専門性を持ち、産業界の発展に寄与できる実践力のある工業技術者の育成」 (1) 校是「根性・協調・純真」のもと、郷土を愛し地域社会の担い手となる気概を育成する。 (2) 新しい時代を築くために必要な情熱と挑戦する心、および目的をやりぬく力を育成する。 (3) 技能を身につける過程において、心・技・体を鍛える「匠のものづくり」を実践する。 (4) 科学的根拠に基づいたものづくりを推進し、科学技術の進展や環境・エネルギー問題に柔軟に対応できる人間を育成する。 (5) 健康と体力の増進に努め、感性豊かでたくましく、心やさしい人間を育成する。
重点目標	【生徒指導】 (1) 自分の存在や生き方を大切にしながら、他者のいのちや生き方を尊重する姿勢を育成する。 (2) 「いじめ防止基本方針」に基づき、早期の予防・発見・対応に努め、いじめのない学校づくりを推進する。 (3) 基本的生活習慣の確立と公共心やマナーを養い、社会の一員としての意識向上を図る。 (4) 学級活動や生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等に主体的に取り組む態度を育成する。 (5) 部活動に積極的に取組ませ、豊かな人間性や連帯感、向上心等を育成する。 (6) 地域社会をフィールドとした生徒会活動を通して、伝統校としての誇りを育む。
	【学校保健・学校安全】 (1) 生徒の心身の状況を日常的に観察し、全職員が共通理解を持った指導を実践する。 (2) 新型コロナウイルス対策「YAMAKO 7 RULES」の見直しと徹底を図り、感染防止に努める。 (3) 教室や校舎内外の衛生環境を日常的に点検し、学習環境の整備・保全とその美化に努める。 (4) インクルーシブ教育システムの考え方を踏まえた特別支援教育の充実を図る。 (5) 生徒が安心して登校できる学校づくりに努め、出席率の向上並びに皆出席者数を増加させる。
	【学習指導】 (1) ICT機器を活用した授業改善に努め、主体的・協働的な学びによる確かな学力を育成する。 (2) 学び合ったことを生かし合い、その成果を地域に発信する。 (3) 地域社会の課題をテーマとした教育活動を通して探究的な学びを充実させる。 (4) 地域、企業、大学等と連携した「社会に開かれた教育課程」を実践し、専門性の深化を図る。 (5) ものづくり大会や資格取得に積極的に取り組ませ、高度な工業技術・技能を習得させる。
	【進路指導】 (1) キャリア教育を通して勤労観・職業観を養い、主体的に進路を選択させる能力を育成する。 (2) 高い進路目標を実現させるため、学年・学科・教科・進路指導部の連携を強化する。 (3) 県内の大学・短大等（山形大学、東北芸術工科大学、県産業技術短大等）への進学者を増やす。
	【工業科】 (1) 新教育課程と5学科体制を円滑に進める。 (2) 各学科のブランドを掲げ、その構築に努める。 (3) マスメディアを活用した各学科の魅力発信に努める。
	【その他】 (1) キャリア教育・SDGs・ボランティア活動等を通して、地域とつながる学校づくりを推進する。 (2) 積極的な情報発信を進めるために、ホームページの更なる充実を図る。 (3) SDGsの取組みやグローバル教育を推進し、学校の活性化を図る。（山工元気プロジェクト・新竹高級工業職業学校との交流促進） (4) 学校に活力を与える部活動やものづくり活動の育成と支援を充実する。 (5) 一人一台タブレットや校務支援システムを活用し、校務の効率化を図る。（ペーパーレス会議検討） (6) コミュニケーションを大切に、ハラスメントの無い、より働きやすい環境づくりに努める。

評価基準 「A」：達成(ほぼ当てはまる) 「B」：概ね達成(やや当てはまる) 「C」：やや不十分(やや当てはまらない) 「D」：不十分(ほとんど当てはまらない)

自己評価		学校関係者評価		総括		
番号	具体的方策と目標・基準等	目標達成状況及び達成に向けた取組み状況と分析	達成度		次年度に向けた改善等	意見・要望・評価等
1	生徒指導	(1) 定期的アンケート等を利用した生徒の実態把握に努め、いじめ等の問題行動の未然防止に組織的に取り組む。【生指】	予定通り実施し、面談も実施することができた。	A	次年度以降も年2回実施すると共に、学年団や部活動顧問との連携を密にして未然防止に努める。	・全般に細やかな方針設定と生徒へのケアがなされていると感じた。また、内部発生の問題事象や対応についても確り記載されており、ガバナンスも働いていると認識した。 ・日頃、学校を訪問していて、来校者への生徒からの挨拶にはいつも感心している。このことは、多くの生徒指導活動の成果の根幹の部分と感じており、引き続きの対応を期待します。
		(2) 自転車安全講話と自転車点検、情報端末機器の利用や公職選挙法等に関する講習会を実施し、マナーや公共心を養う。【生指】	交通安全講話に加え安全教室を実施したが、交通事故は多く交通マナーの悪さも指摘されている。またSNS上のトラブルに注意が必要である。	B	交通ルールの遵守とSNSとの付き合い方を学ばせるため、街頭指導、全体集会等を実施して指導を重ねていく。	
		(3) 学級活動や生徒会活動、学校行事では1人1役以上を担い、またボランティア活動にも3年間で1度は参加する。【生指】	コロナ禍で例年と活動内容等が違う中ではあるが、よくやり遂げている。ボランティアは、コロナ禍の状況で可能なことを実施している。	A	ボランティアは、内容を精査し感染防止対策がとれる事を確認した上で、人の為に役立つ経験を可能な限り行う。	
		(4) 部活動に積極的に参加させ、全国大会出場50名以上を目指す。【生指】	新しい生活様式の中で積極的に活動し、優秀な成績を取めた。全国大会出場は1/25現在で延べ33名である。	B	活動できる貴重さを実感させ積極的に有意義な時間を過ごさせる。顧問の連携を密にし有効に施設を使用する。	
		(5) 生徒会「山工 NEXT VISION 100」のもと、次の百年のスタートにふさわしい活動を展開させる。【生指】	新たなスタートを期し、校則見直しや自動販売機更新、山工祭などで生徒達の想いを可能な限り実現し、成果を上げている。	A	校則見直し等で生徒自身が率先して課題に取り組むことで、自主的な活動を更に発展、継承させていく。	
2	学校保健・学校安全	(1) 校務支援システム等を活用して日常的な生徒の健康状況を把握する。【保健】	校務支援システムによる健康把握も定着してきたが、以前のように生徒の詳細を把握することが出来ない面があり、体系的な改善の必要性を感じている。	A	県全体の校務支援システムであるが、現場の実情に合ったものへの改善が必要と考える。	・健康管理に係る校務支援システムについて、職員の負担軽減となり、より実用的なものになるよう、引き続き改善要望をしている。 ・特別な支援を必要とする生徒や課題を抱えている生徒に対して、SC面談等を行うとともに、家庭との連携を密にしながら対応する。
		(2) 『YAMAKO 7 RULES』の徹底を図り生徒・職員が一体となって感染症予防に努める。【保健】	生徒・職員共にマスク着用についての意識は高いが、生徒の昼食時の会話が目立つクラスがあり呼びかけの徹底が必要である。	B	クラスによって意識の差が表れており、学年、科職員と連携して取り組む。	
		(3) 生徒保健委員による清掃点検活動や「はげんだより」等の発行を実施して、環境の整備・保全とその美化に努める。【保健】	生徒保健委員会による活動は計画に基づき年間を通して活発に行えた。また、昼休みの放送についてもそれぞれ担当者が工夫を凝らして行うことができた。	A	来年度も生徒の自主性を尊重しながら継続していく。	
		(4) インクルーシブ教育システムの考えを踏まえた特別支援教育の充実を図るため、メンタルサポート委員会やスクールカウンセリングを毎月1回以上開催する。【保健】	メンタルサポート委員会やスクールカウンセリングは計画通り毎月1回開催することができた。現場におけるインクルーシブ教育システムについてより理解を深める必要がある。	A	インクルーシブ教育システムについて理解を深める校内研修会の実施と外部研修会への職員派遣を実施する。SCの選定についても検討する時期となっている。	
		(5) 学年ごとに保健講話を開催し、健康や食育に関する知識を学ぶ。【保健】	コロナ禍の中、講師に直接来校していただき講話をしていただけたことは、生徒にとってもとても有意義な学びとなった。	A	来年度も校内開催を基本に実施していく。	
3	学習指導	(1) 各教科・学科でICT機器を活用した授業の研究を行い、年1回以上の研究授業と年2回の授業評価により、課題の抽出及び授業の改善につなげる。【教務】	9/5～9の研究授業週間を中心に、13回の研究授業を実施し、ICT機器を利用した授業も実施された。授業評価指数は前後期とも3.67であった。(R3は前期3.80後期3.79)	B	新学習指導要領に沿った、ICT機器を活用した授業展開の研究を更に推進する。また、授業評価の結果を踏まえ、生徒一人ひとりの理解が更に深まる授業に改善していく。	・資格取得について引き続き積極的なチャレンジを促す指導をして欲しい。可能であれば、資格合格者一覧の各合格者の数値に、受験者数を母数で入れると、チャレンジの指標も見えるようになるかと思う。 ・資格試験の内容を企業より情報を得て、定期的に見直しをしてはどうか。
		(2) 課題研究や工場見学等、地域・企業・大学等と連携した学習活動を通して、専門性の深化を図る。【教務・工業科】	全校課題研究発表会は昨年同様、大視聴覚室からリモートで実施した。3年生の工場見学は予定通り実施できた。先輩との進路説明会は好評であった。	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、企業・大学等の教育機関と連携した様々な学習活動を継続実施する。	
		(3) 工業に関する高度な資格や検定等を取得し、実践力のある生徒の育成を目指す。【工業科】	放課後の講習や家庭学習の充実により例年通りの成果を残すことができた。また、国家資格への挑戦が多くみられた。	A	資格取得はキャリア・パスポートを利用し、計画的に行う指導の在り方や時間外指導を避けていく方法を考える必要がある。	
4	進路指導	(1) キャリア教育実践プログラムに基づいた36ヶ月プランを実行させ、職業観や勤労観を育み、生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な学びを身につけさせる。【進路】	計画に基づき実施することができた。特にインターンシップ、外部講師を招いての進路講話により、職業観や勤労観を育むことができた。	A	来年度はキャリア実践プログラム改訂のため、新学習指導要領をもとに本校の特色を活かせる取り組みを入れる。	・県外大学への進学が増えているが、卒業後どの程度山形に戻って就職しているのか。山形の良さを伝え、戻ってきたと思うような教育をして欲しい。 ・離職率が知りたい。成績だけでなく企業とのマッチング（適正）も考慮に入れ進路指導を行うことで、離職が減るのではないかと。 ・早期から進路意識を持たせ、面談等を含めた情報提供によりミスマッチのない進路指導を行う。
		(2) キャリア・パスポートやICTを活用し、外部模試や行動の記録、振り返りを行い基礎学力を定着させ、進路希望の実現に向け全職員で支援する。【進路】	クラスによってキャリア・パスポートの活用がまちまちであった。外部模試を実施したが振り返り不足であった。小論文、面接指導等を組織的に指導することができた。	C	キャリア・パスポートの活用法、基礎学力の定着に向けての施策の検討が必要である。	
		(3) 高大連携を密にし、大学の出張講義、卒論発表会、SEPS等への参加により、最新の科学技術や環境問題、エネルギー問題に触れるとともに地元の学校の良さを感じさせる。【進路】	山工大工学部、理学部職員の出張講義（186名参加）、産技短との課題研究の連携等を通して高い技術、科学技術に関する知識を得ることができた。産技短への進学者が昨年より増加した。	A	郷土愛、地元の企業、学校の良さをもっと感じることでできる機会を与える。	
5	工業科	(1) 新教育課程に向けた新学科の授業（実習）内容の検討および学習評価の円滑な実施に向けた取り組みを行う。【教務・工業科】	新教育課程に向けての学習内容の精選は順調にできている。学習の指導と評価の一体化についての講習会を実施し、共通理解のもと取り組むことができた。	A	年度ごとに観別評価の割合や評価基準などを検討し直し、改善を重ねながら適正な評価ができるようにする。	・全校課題研究発表会は非常に良い取組みといつも感じている。 ・次年度より「山工コンソーシアム（仮称）」の取組みの一つとして、課題研究を通した高大間の交流を検討する。 ・現在、本校OBの指導による講習も実施している。今後も継続していく。
		(2) 各科の特徴を生かした目標を掲げ、生徒自ら実践できることを目指す。【工業科】	各科のブランドを示すことで実習や課題研究の充実がみられた。	A	明確化された本校のスクールポリシーを外部に発信する方法を検討し、実践する。	
		(3) 各科のSDGs等を意識した取り組みを定期的に確認し、その状況の情報発信を行う。【工業科】	実習や課題研究を通してSDGsを意識した取り組みが随所にみられたが、情報発信をもっと積極的に行うと更に良かった。	A	速やかな情報管理とスムーズな情報発信の方法を検討する。	
		(4) SEPS等、様々な講習やコンテストへの参加により、フルスタックエンジニアの育成を目指す。【工業科】	多くのコンテストや様々な講習会へ積極的に参加でき有意義であったが、参加しているコンテストが多過ぎる。	A	山形大学との教育連携など進路指導部との連携を密にし、多くの生徒が参加できるよう体制づくりが必要である。また、参加すべきコンテストの精選を行う。	
6	その他	(1) 学校・家庭・地域の連携協働の場を作り、学校評議員会、地域貢献活動や地域参加活動等により、地域になくてはならない学校づくりを推進する。【総務】	コロナ禍で活動が制限される中、春季マナーアップ運動、授業参観、親の気持ちを語る会など可能な限り開催した。	B	業師祭清掃ボランティアや花笠祭りパレードなど、コロナ禍で活動を自粛していた行事への参加も含め、例年通りの活動を実施していく。	・学校評価で、教職員と保護者で逆の評価をしているところがある。 ・学校評価（保護者）の内容がわからなく、想像でしか答えられない。せめて教育方針についての説明（保護者と共有）を受けられる機会が欲しい。
		(2) ホームページやさくら連絡網を活用し、迅速かつ確実な情報発信を目指し、学習活動の成果やコンテスト・大会等の結果を校外に発信して山工の魅力を伝える。【図情】	さくら連絡網の使用により、学校と保護者の双方からの連絡がスムーズに行えた。ホームページは4月から各種大会等の報告をはじめ、1/19現在で122回の更新を行った。	A	さくら連絡網の更なる活用方法を研究する。今年度と同程度のホームページ更新を実施する。	
		(3) 校務の効率化のため校務支援システムの活用を図る。【図情】	朝の連絡事項を記入してもらうことにより、朝会の時間短縮や連絡の徹底ができた。毎授業ごとの出欠の記録を記入することで、集計の時間を短縮できた。	A	教職員全員がスムーズに使用できるように、必要に応じ研修会を実施する。システムが更に運用しやすくなるよう、意見を求める。	
		(4) 県立図書館とも連携し、読書に興味を持たせ、図書館報や図書館だより(年5回)を発行し、4冊/年・人)以上を目指す。【図情】	図書館報、図書館だより(年5回)を発行し、本の魅力等を発信するとともに、積極的に図書館を利用できるように働きかけた。本の貸し出し数は4.22冊/年・人)だった。	B	授業でも図書館を活用できるように、各教科の先生方と連携し、必要な専門書等を更に揃えていく。	